

「でんきと私」

熊本県立鹿本商工高等学校
電子機械科 3年 家入 護寛

「この仕事をしたい！」と思ったのは高校2年の夏でした。元々、特別な夢も無く高校へ進学し、将来のことを真剣に考えた事はありませんでした。しかし、高校で「電気工事士」の資格を取得することになり、クラス全体で勉強の日々が始まりました。そんな中、日頃私たちがよく目にする物がたくさん出てきました。

「コンセント」「スイッチ」「蛍光灯」などです。

それは、私達が生活していく中で必要不可欠な物ばかりでした。電気工事という仕事が、こんなにも私たちの身近に存在する仕事なのかと、知らなかった自分が恥ずかしくなりました。そんな事をきっかけに情報を集め、技術と知識を身に付け、しだいに電気工事という仕事に「あこがれ」を抱くようになりました。

高校2年の夏、「インターンシップ」での職場体験がありました。電気工事の企業を希望し、五日間の職場体験をしました。現場で一生懸命に作業をされている姿や、周囲の人から感謝をされる姿を見たときに、私も「電気工事士として人の役に立ちたい」と思うようになりました。

高校3年生になり、「いざ就職！」という時期に新型コロナウイルス感染症が日本でも流行し、企業の採用人数も大きく減ることが予想されていました。自分が希望する企業からの求人があるのかという不安もありましたが、

「自分の夢を叶えるために出来ることは精一杯頑張ろう。」

と言い聞かせながら、熱意を伝えるために面接練習を繰り返し、勉強に励みました。その努力が実を結び、無事に第一希望の企業に内定をいただくことができました。

ほんの少しのきっかけから興味や憧れを持ち、夢となり、実現のために熱意をもって努力する。この熱意を私の初心として、これからもずっと持ち続け冷まらずに生きていきたいと思います。そして私自身「電気」と同じくらい、人々から必要とされる存在になります!!